

Color Atlas of Fetal Skeleton of the Mouse, Rat, and Rabbit 執筆、出版の経緯とデータ公開への思い

広島大学名誉教授 安田峯生

安田は1977年4月に広島大学医学部解剖学第一講座の教授に就任し、主として環境化学物質の発生毒性に関する研究に取り組んだ。研究室には常時数人の医学部学生が出入りし、研究に参加してくれていたが、その一人に結城常譜君（1990年卒業、現在広島県安芸太田病院院長）がいた。

彼には画才があり、クラブ活動で美術部に所属していたが、実験中に観察した妊娠末期胎児の骨軟骨二重染色標本の美しさに魅了され、色鉛筆で標本の絵を描き始めた。標本は軟部組織の透明化の不十分なところや、一部の変形・破損、色素の完全に抜けきらない場所があったりして、写真では十分に表出されないことが少なくなかったが、描画であれば複数の標本所見を合わせて標準的形態を細部まで詳細に表現可能である。このような画像を関連学会等で供覧したところ、多くの研究者から出版して広く利用できるようにすべきだとの激励をいただいた。そこで、描かれた原図に骨部の名称を入れ、図譜としての体裁を整えて、1996年に300部限定、完全予約制で出版したところ、短期間で完売、関連国際学術誌の書評欄でも高い評価を受けた。Research Gateからの連絡によると、出版後四半世紀を経た今日でも多くの学術論文に引用され続けているようで、著者冥利に尽きる。

本図譜の原画は安田が保管していたが、安田が83歳と高齢になったので、終活の一環として、結城と相談の上これを広島大学医学資料館に寄贈することとし、受納された。本書の著作権は安田と結城が共有しているが、2021年が本書出版25周年となるのを記念して、本書の電子化データを公開することについても結城と相談し、快諾を得た。これを機に本図譜がより多くの研究者に活用されることを心から願っている。

（2021年4月記）